

農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業成果（課題番号 22083）

カキ栽培の軽労・省力化マニュアル

平成 26 年 2 月

奈良県農業総合センター果樹振興センター
和歌山県果樹試験場かき・もも研究所
農研機構 果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点

はじめに

カキは日本各地で庭先などに植えられており、古来より日本人の生活に密着して親しまれてきた「くだもの」です。果樹農業としての生産状況は、現在全国で 13,500ha で栽培され、150,000t が生産されています。しかし、その栽培面積は徐々に減少し、生産者も全国的に高齢化が進み後継者不足の状況となっています。

これに対処するため、カキの主要生産県である奈良県（全国シェア 20%）と和歌山県（同 26%）は、平成 22 年 6 月 10 日にカキについての研究連携協定を締結し、新規就農者や高齢者が取り組みやすいカキの生産技術の開発に取り組んできました。

本研究開発は、奈良県農業総合センターが代表機関となり、和歌山県果樹試験場かき・もも研究所および農研機構果樹研究所と共同で、平成 22 年から農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」および「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」において、「担い手確保・遊休農地解消のためのカキの軽労・省力化技術」の課題で実施したもので、このたび研究成果がまとまりましたのでマニュアルの形にしてご紹介します。

本マニュアルは、新規就農者や高齢者でも取り組みやすく理解しやすいように、できるだけ写真や図を用いて具体的に記述しました。多くの方々に見ていただき、農業現場でカキ栽培取り組みへの垣根が少しでも低くなることにつながれば幸いです。

最後に、ご指導頂きました社団法人農林水産・食品産業技術振興協会の鈴木邦彦氏、近畿大学農学部 宇都宮直樹学部長、神崎真哉准教授に心から感謝申し上げます。

平成 26 年 2 月

代表研究機関 奈良県農業総合センター果樹振興センター
共同研究機関 和歌山県果樹試験場かき・もも研究所
農研機構 果樹研究所ブドウ・カキ研究拠点

目 次

はじめに	-----	1
目 次	-----	2
1. 紹介する技術の特徴	-----	3
2. 幼苗接ぎ木を利用したポット栽培		
技術の概要	-----	4
本技術の導入に向けて	-----	4
3. 既存樹の早期樹形改造法（すぱっと主枝再生法）		
技術の概要	-----	10
本技術の導入に向けて	-----	10
4. 結果母枝先端芽せん除処理による省力化（「刀根早生」）		
技術の概要	-----	14
本技術の導入に向けて	-----	14
参考データ		
1. 幼苗接ぎ木を利用したポット栽培に関するデータ	-----	17
接ぎ木時期が翌年の着蕾に及ぼす影響		
幼苗接ぎ木後の摘心が翌年の着蕾に及ぼす影響（「刀根早生」）		
着果対策が幼苗接ぎ木 2 年生苗の着果率および果実品質に及ぼす影響（「富有」）		
着果対策の違いが幼苗接ぎ木 4 年生苗の着果率と果実品質に及ぼす影響		
鉢上げ方法の違いがカキ幼苗接ぎ木苗の生育に及ぼす影響		
省力施肥が幼苗接ぎ木 3 年生苗の果実品質に及ぼす影響		
簡易水分管理方法に関するデータ		
水ストレスが樹体に及ぼす影響		
ポット栽培における軽労・省力化の評価		
2. 既存樹の早期樹形改造法（すぱっと主枝再生法）に関するデータ	-----	27
樹勢と切断後の新梢伸長との関係		
芽かきが新梢の生育に及ぼす効果		
樹形改造後 3～5 年目の着蕾状況および果実品質		
樹形改造により仕立てた低樹高整枝樹の省力化の評価		
3. 結果母枝先端芽せん除処理による省力化（「刀根早生」）に関するデータ	-----	30
結果母枝の先端芽せん除が収量に及ぼす影響		
結果母枝の先端芽せん除が果実品質に及ぼす影響		
引用・参考文献	-----	31
問い合わせ先	-----	32